

ウインターカップ2018

平成30年度 第71回全国高等学校バスケットボール選手権大会 岡山県予選会

日時	2018年11月4日	11:30	男子	決勝
会場名	笠岡総合体育館			Mコート 第Ⅱ試合

● 岡山工業 79	<table border="0"> <tr><td>{</td><td>8</td><td>-</td><td>31</td><td>}</td></tr> <tr><td></td><td>19</td><td>-</td><td>27</td><td></td></tr> <tr><td></td><td>25</td><td>-</td><td>22</td><td></td></tr> <tr><td></td><td>27</td><td>-</td><td>18</td><td></td></tr> </table>	{	8	-	31	}		19	-	27			25	-	22			27	-	18		98 商大附属 ○
{	8	-	31	}																		
	19	-	27																			
	25	-	22																			
	27	-	18																			

審判名	主 審	岩田友幸					副 審	三村力丸, 大嶋将之					
選手名	背番号	得点	3ホ ^イ ント	2ホ ^イ ント	フ ^リ ー ス ^ロ ー	フ ^ア ウル	選手名	背番号	得点	3ホ ^イ ント	2ホ ^イ ント	フ ^リ ー ス ^ロ ー	フ ^ア ウル
池上 武志 (C) *	4	12	1	3	3	3	守友 良 (C) *	4	14	1	4	3	4
相澤 栄太	5	-					藤原 進伍 *	5	13	2	3	1	2
大森 吉貴 *	6	11	3	1		4	井上 成也 *	6	18		6	6	2
角谷 大成 *	7	10	1	3	1	5	小林 亮太 *	7	12	2	3		4
岡村 竜生	8	0					河野 彪雅	8	-				
有松 隼弥	9	0					櫻木 翔	9	-				
近藤 直希 *	10	10		4	2	3	脇 真大 *	10	37	2	15	1	4
青木 大聖	11	-					山田 陵汰	11	0				
浅野 裕哉	12	-					吉田 圭汰	12	2		1		
西本 早稀	13	0					楨尾 青葉	13	-				
難波 遥希	14	-					田村 潤	14	-				
小椋 大雅	15	-					森山ハ ^ハ ト隼太	15	0				
前花 拓海	16	3	1			2	深津 章太	16	2			2	3
星島 律孔	17	-					崎濱 秀平	17	-				
木岡 裕太 *	18	33	1	12	6		崎濱 秀太	18	-				
合 計		79	7	23	12	17	合 計		98	7	32	13	19

戦 評

1P 岡工⑩のドライブから試合が始まるも商大⑩のシュートブロックで守り、奪ったボールを商大④がバスケットカウントからフリースローも確実に決め商大が先制する。すぐさま岡工④がローポストプレイからファウルをもらい、フリースローを1本決める。しかし、岡工はその後ターンオーバーが増え、点が止まる。一方商大はスピードのある攻めから⑩が立て続けに点数を重ねていく。離されたくない岡工も⑥の3ポイントや⑩のドライブで流れを変えたいがなかなかシュートに結びつかない。中盤でようやく岡工⑩がターンシュートを決め岡工3-13商大とする。しかし、終盤も商大の速攻が次々と決まり点差を広げていった。タイムアウトを取り、流れを変えたい岡工だが、ことごとくリングに嫌われ岡工8-31商大で1P終了。

2P 1の流れを切らしたくない商大はパス回しから⑤がドライブを仕掛け先制点を奪う。岡工も負けじと速い攻めから⑩がドライブをくり出しファウルをもらい点数を重ねる。しかし、その後外からのシュートなども狙うがリングに嫌われ点数が続かない。たまたま早くも岡工は前半2回目のタイムアウトをとるも、直後の攻めをバスケットされ、商大の速攻からゴール下⑩へのパスが決まり確実に得点する。岡工も④や⑩が粘りをみせドライブから立て続けにシュートを重ねた。その直後、すぐさま商大はタイムアウトを要求。勢いに乗りかけた岡工だったが、商大の勢いがきれることなく速攻から⑩のシュートや⑤番の3ポイントが決まる。終盤岡工もオールコートディフェンスなどで粘りをみせ、そこから速い展開で⑩や⑩がドライブ、⑦の3ポイントも決まり食らいつく。岡工27-58商大リードで前半を折り返す。

3P 岡工は⑩のスリーポイントで巻き返しの糸口を掴むと、⑥も引き続きスリーポイントを決める。その後もリバウンドからの④の速攻やオールコートディフェンスから相手のターンオーバーを誘い⑦の得点に繋げるなどして勢いに乗った岡工は、開始3分で岡工41-64商大と一気に巻き返す。商大も負けじと⑩のドライブや⑩の連続得点で応戦し、両チームとも点の取り合いの展開となる。岡工はオールコートディフェンスを続けて勢いを緩めない。残り3分となったあたりで商大のオフenseにミスが出始め、岡工52-72商大と岡工が20点差まで詰め寄るが、その後は得点を止めてしまう。終盤は商大が再び流れを掴み、④や⑥が1対1から得点を挙げるなどして再び突き放し、岡工52-80商大と28点差で3Pを終えた。

4P 3Pの序盤に掴んだ勢いを取り戻したい岡工は、4P立ち上がりも激しいディフェンスから④がスティールからの速攻で最初の得点を挙げると、続いて⑩も速攻からゴールを決める。商大は岡工の激しいオールコートディフェンスに対し、⑤がドリブルでキープしながら落ちてきて運ぶ。しかし残り7分、岡工の必死のディフェンスに苦しみ、およそ3分間得点が止まる。その間に岡工は⑩の連続得点などで岡工69-86商大と点差を14点まで詰める。残り4分、タイムアウトで落ち着きを取り戻した商大は⑥のドライブからの得点で息を吹き返すと、⑤の巧みなパスを⑩が決めるなどチームプレーも本来の姿を取り戻した。残り2分、岡工のオールコートディフェンスをかいくぐりながらも、ハーフコートに入るとショットクロックをうまく消費しながら攻める商大は④のスリーポイントで岡工76-95商大とすると、ゲーム終盤は前から当たる岡工の裏をかくロングパスを⑩の得点に繋げるなど落ちていたゲームを運び、見事にウインターカップへの初出場を決めた。

